

ミニ学習会報告①

8月28日、NPO 法人さんかくナビの活動について、ミニ学習会を行いました。講師は、さんかくナビの理事長貝原己代子さんと、2014年度のさんかくナビ通常総会議案書をもとにお話をいただきました。

さんかくナビでは、暴力を受けた女性と子どもがその環境から抜け出して安全で安心して暮らせるためのシェルターやステップハウスを中心に運営してきました。

シェルターやステップハウスの運営費は、岡山県や岡山市の補助事業として1/2の補助を受けていますが、実際の運営は大変なようです。

この10年間でさんかくナビを巣立っていった女性は140人、子どもは60人います。

子どもの学習支援では、岡山大学の学生の力を借りてきました。この活動により、大学の単位が取得できたらいいとさんかくナビでは考えています。

「性暴力被害者救援センター」の実態と支援のありかた・体制を、現場にいる関係者とともに調査研究を進めています。備前県民局の提案募集協働事業で、「性暴力被害から回復への支援体制を知る」と題する加藤治子阪南中央病院産婦人科医師の講演会を実施しています。

元気な女性だけでなく、暴力により生きる力をそがれている女性と子どもが安心して暮らせる「女性が輝くまちづくり」を進めていきましょう。
(文責 下市このみ)

ミニ学習会報告②

10月21日、本年3月に設置された「人身安全関連事案対処プロジェクトチーム」の概要について、ミニ学習会を行いました。講師は、岡山県警察本部生活安全企画課課長補佐の西村浩隆さん、DV・ストーカー担当として数年間関わってこられた方です。

このプロジェクトチームは、全国的にストーカー・DVをはじめとする恋愛感情等のもつれに起因する暴力的事案が後を絶たず、昨年の東京都三鷹市の例など殺人等の重大事件に発展する場合もあり、事案を認知した段階から、組織による迅速かつ的確な対応を強化するために、本年3月に設置されました。

対象事案は、ストーカー・DV事案をはじめ、児童虐待、高齢者・障害者虐待等、人身の安全を早急に確保する必要の認められる事案。警察本部生活安全企画課長を統括指揮官とし、警察本部の生活安全部と刑事部の警察職員で構成する130人体制。情報・分析班として20名が各警察署から報告される事案について個別に危険性・切迫性を判断し、必要な助言・指導を行います。現場即班として110名が危険性・切迫性が高い事案の場合に、警察署に派遣されます。

これにより、従来は、警察署長を経由して本部に報告されていた被害の認知が、直接プロジェクトチームと警察署長に同時並行して報告されることにより迅速・的確な対応が可能となり、加えて、被害の未然防止・行政措置等を担当する生活安全部門と、捜査を担当する刑事部門とが、事案認知の段階から情報共有をすることで、危険性・切迫性について、より正確に見極めることが可能となったそうです。

発足後半年にわたる活動からの感想としては、被害者の方に危機感を持ってもらうことが難しいとのこと。警察では、まず、被害者に対して、今置かれている状況が如何に危険な状況か、自分だけでなく家族にも危険が及ぶ可能性があることを説明し、何が出来るかを説明し、被害者が望む対応を行っており、積極的に事件化することによって、一時的にでも、被害者の安全を確保したいと取り組んでいるとのことでした。

警察本部の担当者のお話を、ストーカー・DV被害者の相談を日々受けている相談員の方々と一緒にうかがい、活発な意見交換ができたことは、大変意義のあることだったと思います。今後の支援につなげていきたいと思っています。
(文責：木口京子)